

平成 28 年度 生駒市行政改革推進委員会

第 2 回 会議録

開催日時 平成 28 年 8 月 23 日（火） 午前 9 時 30 分～午前 11 時 30 分

開催場所 生駒市役所 4 階 401・402 会議室

出席者

（委員） 松岡副委員長、藤堂委員、谷中委員、塚原委員、一柳委員

（事務局） 今井総務部長、西川総務課長、山本総務課課長補佐、渡辺行政経営係長、
片山総務課係員

（傍聴者） 1 名

欠席者 森委員長、小林委員

1 開会

2 案件

（1）後期行動計画の取組状況の確認について

（松岡副委員長） 後期行動計画の取組状況について、各委員から意見や総合評価案を出していただいている。それをもとに、取組状況に対する評価を議論して決めていきたいと思う。

（藤堂委員） 総合評価については、各委員の平均を取るのか。

（塚原委員） 高評価の人の意見と低評価の人の意見を聞きたい。

（松岡副委員長） 議論しているうちに評価が変わることもあると思うので、平均を取るのではなく、個別の項目についてひとつずつ議論しながら評価を決めていきたいと思う。よろしいか。

（各委員） はい。

1. 行政運営の状況の分かりやすい情報提供・効果的な情報共有

（松岡副委員長） 意見等はあるか。

（藤堂委員） ホームページについて、以前は広報紙が読み上げの対象外だったが、リニューアル後、広報紙の音声ファイルが追加された。目の不自由な方に配慮されている点が評価できる。また、様々な媒体で情報を発信している点についても評価できる。

（塚原委員） 様々な媒体を使って、より幅広い層へ情報を発信しよう努力している

点が評価できる。

- (一柳委員) 一定の成果が得られたと評価できると思う。様々な媒体を使っている
ので、高齢の人は広報紙から、若い人は SNS 等から情報を得ることが
できる。
- (谷中委員) ホームページは良く見るが、使いやすいという印象がある。
- (松岡副委員長) 意見や満足度調査の結果も踏まえて、一定の成果が得られたとい
うことで、「C 評価」が妥当だと思う。よろしいか。
- (各委員) はい。

2. 情報共有の充実に向けたツールの活用

- (松岡副委員長) 意見等はあるか。
- (藤堂委員) たけまるモニターはある程度機能していると思う。今後はホームペ
ージ上のアンケートシステムでアンケートを行うとのことだが、たけまるモ
ニターは登録していると質問が送られてきていたので答えやすかったが、
自分からホームページにアクセスして積極的にアンケートに答える人が
どれくらいいるのかが未知数なので、効果的に機能するかどうか今後チェ
ックしていかないといけないと思う。また、(1) の項目とツールが重複
していて分かりづらい。
- (事務局) ツールのすみ分けがあいまいになってきてしまっている。次回行動計
画を作る際は考慮していきたい。
- (松岡副委員長) 各委員の評価できる点等から判断すると予定どおりの成果が得られた
ということで「B 評価」が妥当だと思う。よろしいか。
- (各委員) はい。

3. 市民自治協議会の設立拡大と運営支援

- (松岡副委員長) 意見等はあるか。
- (藤堂委員) 全く進捗していない訳ではないが、ほとんど足踏みしている状況なの
で低い評価にした。市民自治協議会は、自治会加入率の低い地域では有効
だが、生駒市は自治会加入率が 80% くらいあるので危機感があまりない。
今後リーダーシップのある人が引っ張っていかないと難しい。
- (事務局) 市としても様々な取組をしているがなかなか進まないのが現状である。
組織が増えることで役割が増えてしまうなどマイナスのイメージを抱か
れているのかもしれない。市民自治協議会のメリットを積極的に PR して
いきたい。
- (谷中委員) 組織が増えると市民の負担が増えてしまうようなイメージがある。市
民自治協議会のような大きい組織のリーダーをボランティアでやっても

らうことは厳しいと思う。

(一柳委員) 高齢化が進んで地域のイベントの手伝いができなくなっている人が多く、地域のつながりも希薄になってきている。

(藤堂委員) 長い目で見れば過渡期にきているのではないかと思う。また、鹿ノ台では市民自治協議会のような活動をされているが、小学校区単位という生駒市の基準にそぐわないので認定されていない。将来全市的に市民自治協議会ができたときに取りこぼす地域があってはいけないことは理解できるが、基準に押し込めることは難しいので、ある程度似かよった活動をしているのであれば市民自治協議会として認めても良いのではないかと思う。取組状況の評価としては、プラットフォームはできていることを考慮すると「D評価」で良いのではないか。

(松岡副委員長) 市民自治協議会自体が必要かどうかについても引き続き議論しなければいけないと思うが、評価については、やや不十分な成果ということで「D評価」が妥当だと思う。よろしいか。

(各委員) はい。

4. 市民、NPOなど協働のパートナーへの支援

(松岡副委員長) 意見等はあるか。

(藤堂委員) 広報の努力はしていると思うが、それに反して登録団体数が増えていない理由はどう考えているのか。

(事務局) 団体自体の事情もあるので原因を掴みきれていないのが現状である。昨年末には団体を対象にアンケートを実施しているので、それをもとに見直しをしていこうと考えている。

(藤堂委員) 支援の届出が増えていない原因については、団体の関係者からの支援にとどまってしまっており、直接関係のない市民からの支援が少ないからだと思う。そうすると、大きな組織を持っている団体が登録を見送ると、届出数が大幅に減ってしまう。

(谷中委員) 制度自体は知っているが、内容が詳しく分からない。

(藤堂委員) 特に小規模な団体が支援を得づらくなっていると思う。

(松岡副委員長) 手続きが煩雑で届出のハードルが高いかもしれない。

(一柳委員) お金の流れがどうなっているのか分かりづらい。

(事務局) 各団体への届出数に応じて市から支援金が出る仕組み。届出する人はその場でお金を払っていただく必要はない。

(松岡副委員長) うまく機能すればとても良い制度だと思う。ここでは運用についての評価ということなので、「C評価」か「D評価」になると思うが意見はあるか。

(藤堂委員) 制度としては評価できるが、数値目標から判断すると「D評価」が妥当だと思う。

(松岡副委員長) 報告書のコメントに議論の内容を盛り込んでいただくとし、評価としては「D評価」でよろしいか。

(各委員) はい。

5. 市民政策提案制度の効果的な運用

(松岡副委員長) 意見等はあるか。

(谷中委員) 提案するかしないかは行政側の問題ではなく市民側の問題だと思う。提案件数0件ということで成果としては不十分になるかもしれないが、このような制度があること自体に意義がある。

(松岡副委員長) 制度の運用としては、提案の要件を緩和して入口を広げたことが評価できると思う。実際に何件提案があったかという指標で評価することは難しい。

(谷中委員) 目標の立て方に問題があると思う。

(事務局) 他市町村でも同じような形態をとっているところは提案件数が伸び悩んでいる。一方で、市民との協働事業を募集しているところは毎年数件の提案が出ているところもあるので、制度としては改善の余地があると思う。

(松岡副委員長) 提案件数は0件なので、数値目標から判断すると「D評価」以下になると思うが、目標の立て方にも問題があり、提案要件の緩和も行っているので「C評価」でも良いと思うが意見はあるか。

(藤堂委員) これまでの他の項目と比べるとこの項目だけ「C評価」にするのは少し甘いように思う。

(松岡副委員長) では、他との整合性等も考慮して「D評価」でよろしいか。

(各委員) はい。

6. 総合計画に基づく施策・事業の進行管理

(松岡副委員長) 意見等はあるか？

(藤堂委員) 数値目標には達していないが、前回よりもアップしているので評価できると思う。

(谷中委員) 「B評価」か「C評価」だと思う。

(塚原委員) 個人的には評価しているが、他の自治体と比べて住みやすいのかどうか分からない。同規模の自治体と比較できれば分かりやすい。

(松岡副委員長) 人口や予算規模が同程度であっても、市の特徴はそれぞれ違うので単純に比較することは難しい。

(事務局) 例えば、東洋経済新報社が行っている「住みよさランキング」で生駒

市は全国で64位、近畿で10位、奈良県では1位となっている。このランキングは安心度、利便度、快適度、富裕度、住居水準充実度からなっており、生駒市は総合的に全国的に見ても上位にランキングされている。

(松岡副委員長) 全国的にも生駒市の住みやすさが評価されていることが分かる。また、アンケート調査で6割を超えていることは評価できると思う。取組状況の評価としては「B評価」が良いのではないと思う。よろしいか。

(各委員) はい。

7. 民間委託の範囲の拡充など民間活力のさらなる活用

(松岡副委員長) 意見等はあるか。

(一柳委員) 市の事業を受託している民間企業から通知が来ることがあるが、市の事業かどうか分かりづらいことがある。様々な分野で民間委託が進められているが、中には市ですべき事業も民間委託されていることがあるように思う。

(藤堂委員) 民間企業等に丸投げするのではなく、しっかりと市でフォローをしているのであれば問題ないと思う。

(松岡副委員長) 各委員の総合評価から判断し、一定の評価が得られたという「C評価」でよろしいか。

(各委員) はい。

8. 指定管理者制度の効果的運用

(松岡副委員長) 意見等はあるか。

(谷中委員) モニタリング実施ということは、指定管理者のサービス水準もチェックしているのか。

(事務局) 以前は事業報告書でのみチェックを行っていたが、今は利用者アンケートの結果等を踏まえてモニタリングを行っている。

(谷中委員) ある施設では、指定管理者制度を導入してからサービスが悪くなったと聞いたことがある。

(事務局) 反対の話も聞いたことがある。至らないところに関しては、利用者アンケート等で記載していただければ、改善されるのではないと思う。

(塚原委員) 予約の際など、全利用者に対して平等に対応すると、融通が利かないということでクレームになったりするので利用者全員満足させることは難しいと思う。

(松岡副委員長) 難しいことではあるが、利用者の声も聞きながらモニタリングを行うことはとても重要であり、実施していることは評価できる。取組状況の評価としては「B評価」が良いのではないと思う。よろしいか。

(各 委 員) はい。

(2) その他

第4回の日程調整

3 閉会